課題番号４０

基幹果樹品目の安定生産

～　高品質くだもの生産をめざして　～

対象：いわみざわ農協果樹生産組合　１５戸

１　活動の背景

いわみざわ農協果樹生産組合は岩見沢市と三笠市の果樹生産者で構成されており、りんごを中心に、おうとう、なし等が栽培されている。

近年、常態化する夏場の高温傾向等による病害虫発生状況や果樹農薬を取り巻く情勢の変化に対応した病害虫防除体系の見直しが急務となっている。

	りんご	おうとう
現　状	りんご黒星病重点防除時期である「展葉７日後散布」の基幹殺菌剤が失効 平均気温上昇による害虫の被害増加が懸念される。	ｵｳﾄｳﾊﾏﾀﾞﾗﾐﾊﾞｴの被害が年々増加傾向にある。
課　題	代替薬剤の検討 予察に基づいた適期防除の実施	防除薬剤の見直し

果樹安定生産に向けた防除体系の見直し

２　活動の経過

・代替薬剤の検討

試験ほ調査

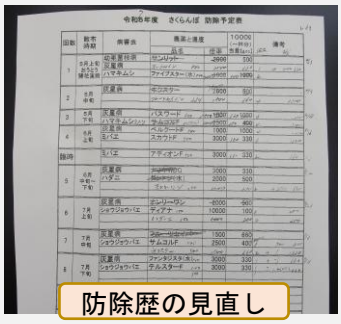
失効農薬の代替剤を提案するため、従来薬剤との比較試験ほを設置しました。

・予察に基づいた適期防除の実施

フェロモントラップの設置・調査

フェロモントラップによる予察を行い、予察結果を基に防除体系を見直し情報提供を行いました。

・防除薬剤の見直し



防除歴の見直し

ｵｳﾄｳﾊﾏﾀﾞﾗﾐﾊﾞｴ対策として新規薬剤の追加を提案しました。

３　成果の具体的内容

目標事項

防除体系見直し農家戸数　（0戸→2戸）

令和７年実績

・りんご黒星病の「展葉７日後散布」薬剤見直し農家戸数（0戸→１戸）
・おうとうのｵｳﾄｳﾊﾏﾀﾞﾗﾐﾊﾞｴ対応薬剤見直し農家戸数（0戸→2戸）

達成率　100%

・代替薬剤の検討

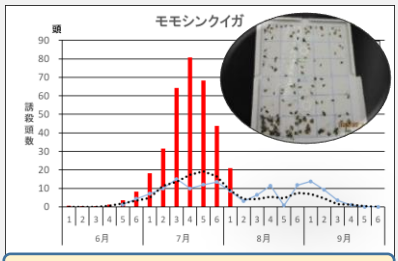
★比較試験の結果、代替薬剤の有効性を確認することができ、次年度のりんご防除体系に反映させることができました。

りんご黒星病薬剤効果試験

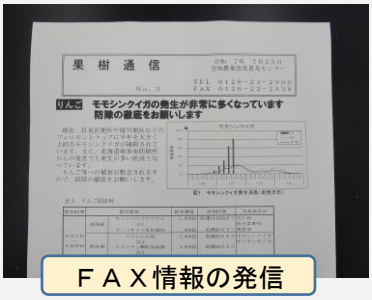
薬剤区分	倍率	発病花叢率（%）		
		5月12日	5月21日	6月2日
A剤散布区	1，000倍	0	0	0
B剤散布区	1，000倍	0	0	0

※1　A剤：代替剤殺菌剤、　B剤：失効予定殺菌剤
※2　A剤、B剤散布日　5月12日（展葉７日後散布）
※3　調査方法：1樹100花叢、3樹調査
※4　展葉７日後防除以降の防除は両区とも同じ

・予察に基づいた適期防除の実施。



フェロモントラップ調査結果



ＦＡＸ情報の発信

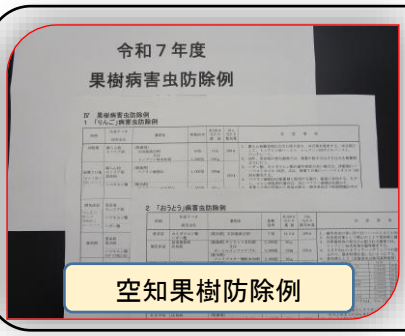
★フェロモントラップの予察を基にFAX情報で適期防除に向けた情報提供した結果、りんごの害虫による大きな被害は見られませんでした。

・防除薬剤の見直し

ｵｳﾄｳﾊﾏﾀﾞﾗﾐﾊﾞｴ発生調査と被害

★ ｵｳﾄｳﾊﾏﾀﾞﾗﾐﾊﾞｴ対策として新規殺虫剤１剤を提案した結果、２戸の農家で防除体系に取り入れてもらえました。
★新規殺虫剤導入の結果２戸中、１戸の農家で前年と比較して被害の減少が確認されましたが、もう１戸については前年並の被害となりました。

４　今後の課題と対応



空知果樹防除例

◎今年度の活動成果を基にりんご・おうとうの防除体系を見直し、令和８年度空知防除例を作成・配布し、組合全体に波及します。

◎ おうとうのｵｳﾄｳﾊﾏﾀﾞﾗﾐﾊﾞｴ対策については、より一層の被害減少に向け、適期防除のための予察方法等の検討を行っていきます。